

クラウドをテコに次の成長へ

今年を転換点にしたい――。

NTTコミュニケーションズ(以下、NTTコム)代表取締役社長の有馬彰氏はそう語る。

NTTコムは昨年10月、「グローバルクラウドビジョン」と題した新たな事業ビジョンを策定した。これは、通信キャリアとしての強みを活かした競争力の高いクラウドサービスをグローバルに展開しようという方向性を示したコンセプトだ。

音声収入の落ち込みと通信サービスのコモディティ化のなかで収益を確保し、かつ次なる成長を期すには、新たな領域への進出が不可欠となる。減収傾向からのV字回復を目指す強い決意の下に、柱に据えたのがクラウド事業である。

クラウドを「シームレス」に

今やクラウドは、あらゆる通信キャリア、SIerが注力する領域であり、

さらに巨大な海外のプレイヤーとも戦わなければならない。

競争が激化するこの市場でNTTコムはどのように勝機を見出そうとしているのか。キーワードの1つが「グローバル」だ。

経済のグローバル化が進展し、多くの企業が事業のフィールドを世界に広げている。発展領域を世界に求めざるを得なくなっており、それが企業の成長力を測る物差しとなっている。そのなかで当然、ICTに求められるニーズは多様化し、国や地域の違いを問わない「ワンストップサービス体制」が求められるようになって来ている。

従来から「Global ICT Partner」を標榜してきたNTTコムは、世界規模でサービス展開するための体制整備を進めてきており、すでに30カ国／エリアに現地法人・海外事務所を設置し、150カ国以上でサービスを提供している。データセンター(DC)は今年4月時点で125拠点、今年度末までに140超へと拡大する予定だ(図表1-1)。

このカバレッジの広さが、クラウド事業を展開する上での第一の強みだ。世界各国のDCを基盤とし、ネットワークサービスと合わせて各種クラウドサービスをワンストップで提供することができる。国／地域を問わ

ない「グローバルシームレス」なサービスにより、経営のグローバル化、スピード化、コスト削減などのさまざまなニーズに応えていく。

グループ組織全体を再構築

提供エリアの広さに加え、サービスそのものの拡充も進めている。「ネットワークからクラウド、アプリケーション、セキュリティまで、すべてのサービスをグローバルシームレスなものにするための取り組みを進めている」(有馬社長)。

その端緒が、2011年8月に行った組織再編だ。

従来は各種のサービスごとに開発、提供、販売、運用を手がける縦割型組織がサイロ型で存在していたが、これを機能別組織に改編。次の4つのサービス部が、企業ICTの各要素となる各種のクラウドサービスやネットワークサービスの強化を担う。

①クラウドサービス部

ITインフラとして利用されるデータセンターサービス、IaaS (Infrastructure as a Service/PaaS(Platform as a Service)を担当する

②ネットワークサービス部

クラウドを利用するのに必要な性能・機能等を備えたネットワークサービスを提供する

図表1-1 データセンターのカバレッジ

国/地域数	DC数	面積(m ²)	
米州	2	7	1.8万
欧州	5	13	0.8万
APAC	10	121	14.5万
中国/香港	9	91	1.9万
日本	91	10.0万	
合計	17	141	17.0万

※2013年3月予定